

アセスメントシートの記入方法

アセスメントシートの記入方法

1 学校プロフィールの記入方法

各項目について、あなたの学校がどのように考えているかを記述してください（箇条書き程度で結構です）。

記述にあたっては、学校経営上重要と考えることに焦点をあててください。その際、記述内容について学校内で対話し、学校全体で認識を共有することが、自己診断の第一歩となる重要な作業であり、学校経営品質向上のための基礎となります。

また、記入後の点検を行うことにより、全体像の的確な認識に努めてください。

2 各カテゴリ項目の記入方法

(1) 各質問事項への回答

4段階評価

まず、各質問事項について、あなたの学校の現状を4段階で評価し、それぞれの質問事項の右側にあるA～Dの該当する欄に 印を付してください。A～Dの評価内容は次のとおりです。

なお、この4段階評価は、各質問事項のセルフチェックとして行うものであり、特段の評価基準を設けませんので、各学校で適宜ご判断ください。

（カテゴリ1～7の場合）

- A... できている
- B... 概ねできている
- C... どちらかというとできていない
- D... できていない

（カテゴリ8の場合）

- A... 主要な取組項目に明確な目標を設定しており、大半が改善傾向を示している
- B... 目標設定しているが、達成しているのは一部である / 一部に目標を設定して、目標を達成している
- C... 目標を設定していないが、結果は捉えている
- D... 目標、指標がない / 取組結果を把握していない

「取組状況」欄の記述

次に、A～D欄の右側にある「取組状況」欄に、以下の要領でご記述ください。

（ア）AまたはBと評価した場合... 具体的な取組の内容を箇条書きで記述

（イ）CまたはDと評価した場合... 取組を阻害する要因があれば記述

なお、カテゴリ8においては、A～Dの評価にかかわらず、取組結果の具体的な内容を記述してください。（記載例：生徒の就職内定率 95.0 95.8）

「事項」欄にある空欄の活用

「事項」欄の最下行にある空欄には、そのカテゴリーにかかる質問事項を各学校で自由に新設し、アセスメントにご活用ください。

(2) 「強み」「弱み」の記述

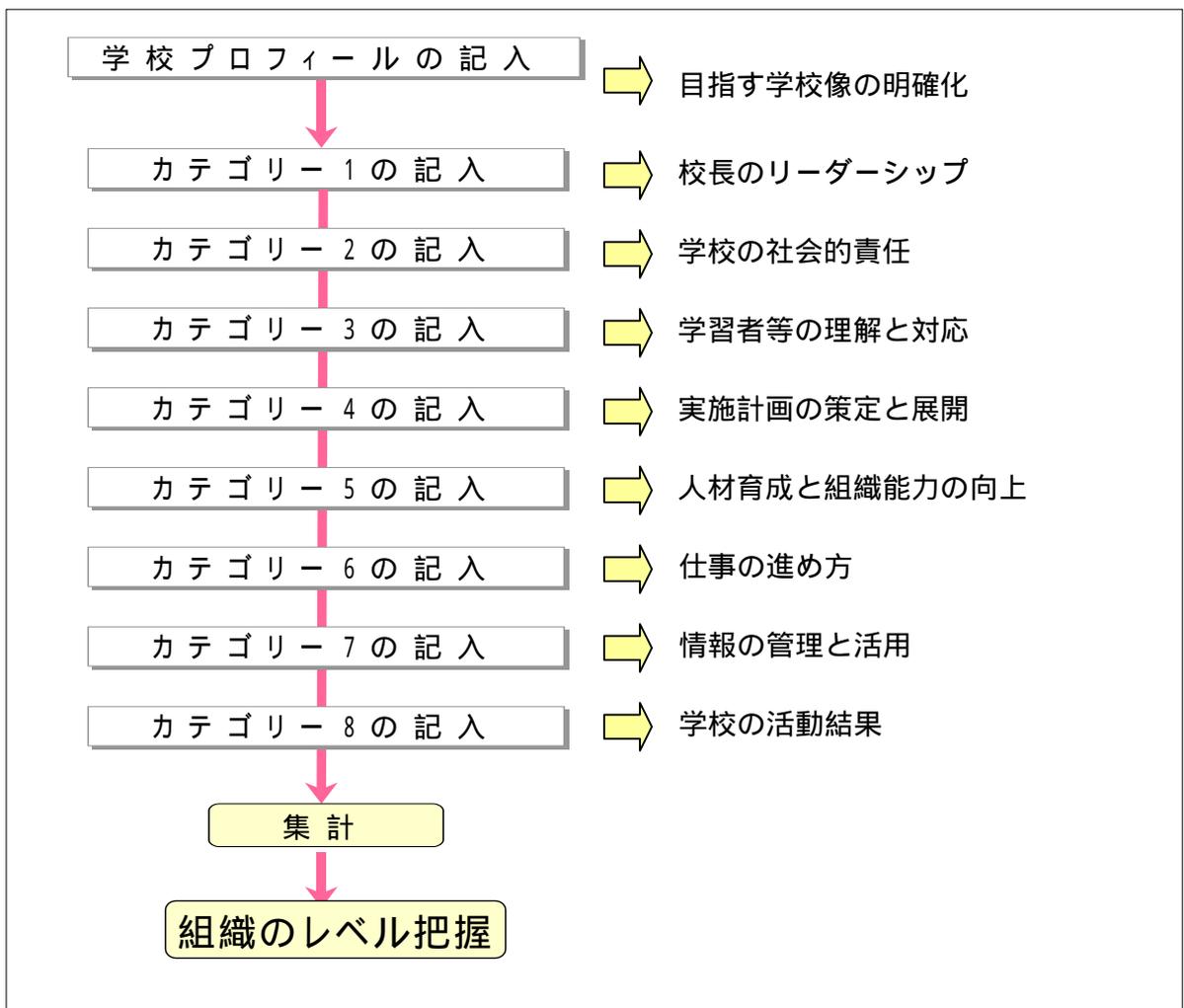
続いて、各質問項目の評価を行うことによって明らかとなったあなたの学校の「強み(良い点)」と「弱み(改善点)」とを、質問事項の下に設けてある該当欄に記述してください。

(3) カテゴリー全体の自己評価(評点)

(1)～(2)の作業をふまえ、現在の学校の状況が別紙の評点ガイドラインのどれにあたるかを検討し、「自己評価」欄の0～5の該当欄に を記入してください。

すべての評価項目に回答し終えたら、一貫性のある回答内容であるかどうかについての点検をしてください。

<アセスメントシートの記入フロー>



3 評点計算

全カテゴリーの評価を終えたら、別紙の評点集計表を用いて、各カテゴリーで記入した評点に、カテゴリー毎に示された「重点度（ウエイト）」を乗じてカテゴリー毎のスコアを算出してください。

算出したすべてのカテゴリーのスコアを合計した値が総合得点となります。総合得点は1000点満点です。

なお、この自己評価は、学校自らの継続的な改善の目安、あるいは励みとしてご活用ください。

《評点総括》

評点総括では、総合得点に応じた学校経営のレベル判定を行います。D～AAAまでのレベルは学校経営の現在の「成熟度」を示しています。このレベルは学習と改善を重ねることにより、段階的に上がっていきます。

成熟度の高い学校経営を目指すためにはまず現状のレベルを認識し、ワンランク上の成熟レベルを目標として改善を重ねていくことが大切です。その意味で別紙の評点ガイドラインは、どのような学校経営を目指すのかの改善目標の指針としての役割も果たしています。

評点レベル		内容
D	0～99	経営品質を理解し、その考え方をういた改善への取組が一部の業務で始められているが、その成果がごく一部か、ほとんど見られないレベル。
C	100～299	経営品質向上活動が、学校の重要な活動として明確に位置づけられ、一部で定着し始めており、その成果がいくつかの領域に見られるレベル。
B	300～499	校長が強いリーダーシップで経営品質向上活動をリードしている。教職員は経営品質向上活動の取組の重要性を理解し、多くの領域でその取組を展開しており、その成果が多くの領域に見られるレベル。
A	500～699	経営品質向上活動の取組が多くの領域で展開され、さらなる改善への学習が行われている。その成果として多くの領域で良好な結果が見られ、その幾つかは国内トップあるいはベンチマーキング対象として選定されるレベル。
AA	700～899	継続した経営品質向上活動が学校全体で取り組まれ、さらなる学習が定着している。その成果としてほとんどの領域で優れた結果が見られ、その多くは国内トップあるいはベンチマーキング対象として選定されるレベル。
AAA	900～	経営品質向上活動の繰り返しで多くの学習を行った結果、学習者等に対し、最高の価値を提供するしくみが確立されている。経営品質すべての領域において世界的な範として認められるレベル。

(1) カテゴリー「1～7」に係る「評点ガイドライン」

レベル	方法 / 展開
0	<p>問題意識なし</p> <p>ア 「学習者等」重視の問題意識がなく、取組の目的や方針を考え、明らかにする段階に至っていない。</p> <p>イ いまある決まり事や従来のやり方を漫然と実施し、考え方を変えることもない。</p>
1	<p>場当たり</p> <p>ア 「学習者等」重視の問題意識を持ち始めているが、取組は受け身であり、目的や方針を積極的につくろうという考えが明確になっていない。</p> <p>イ 一部で、「学習者等」重視に結びつく取組を始めたが、場当たりの形で形だけの対応に留まっている。</p> <p>ウ 問題が発生してもその原因を追究せず、それぞれの教職員が、個々の問題にそれぞれのやり方で対処している。</p>
2	<p>「学習者等」重視の初歩</p> <p>ア 「学習者等」重視の視点から、問題の重要性について学校全体で検討し、取組の目的や方針を明らかにしている。</p> <p>イ 学校全体で「学習者等」重視に向けての取組が行われ、一部で各部門間での協力した活動が行われはじめている。</p> <p>ウ 取組ごとに達成目標を設定し、それが達成できているかどうかを明らかにし、取組が良かったのか、悪かったのかについて、組織で話し合う機会が持たれはじめている。</p>
3	<p>「学習者等」重視の定着</p> <p>ア 「学習者等」重視の視点から、学校全体の問題意識を高める働きかけが多く行われている。</p> <p>イ 教職員のみならず「学習者等」や各部門との話し合いにより、学校の目指す方向と一貫性のある取組が具体的に検討されている。</p> <p>ウ 主要な取組の達成目標を定め、達成状態を明らかにするための情報・データが決められている。主要な取組について客観的判断ができる数値指標が導入され、結果を用いて組織で話し合う機会が持たれている。</p>
4	<p>改善・改革の常態化</p> <p>ア 「学習者等」重視の視点から、将来的な見通しも視野に入れて、常に問題の本質を把握しようという動きが学校全体で行われている。</p> <p>イ 教職員と「学習者等」の間や、各部門間での対話が活発に行われ、目指す学校像を実現する取組が検討・実施されている。</p> <p>ウ すべての取組の達成度を明らかにし、さらに高い目標の設定とその達成のための改善・改革活動を、教職員と「学習者等」の積極的な参画のもとで実施しはじめている。</p>
5	<p>改善・改革軌道</p> <p>ア 「学習者等」重視の視点から、将来的な見通しも視野に入れて、常に問題の本質を問い直すことが学校全体で行われている。</p> <p>イ 教職員と「学習者等」の間や、各部門間での対話が活発に行われ、目指す学校像を実現する取組が全体最適の視点で検討・実施されている。</p> <p>ウ あらゆるリスクへの対応について、多様な視点で取組が行われている。</p> <p>エ すべての取組の達成度を明らかにし、さらに高い目標の設定とその達成のための改善・改革が常態化し、関係する諸活動との整合性もはかれるようになっている。</p> <p>オ 教職員と「学習者等」とが、あるいは各部門間が協働して新たな目標を創造し、それを達成する方法を継続的に学習する取組を導入している。</p>

(2) カテゴリー「8」に係る「評点ガイドライン」

レベル	結 果
0	ア 学校目標や取組の結果が何も示せない。
1	ア 取組の結果を何らかの形で示すことができるが、行ったことがらを列挙する程度である。 イ 学校目標、取組目標及びその達成状況を示すことができない。
2	ア 学校が達成すべき目標とそれを達成するための取組について、不十分であるが一部の結果を示すことができる。 イ 多くはまだ、行ったことがらを列挙する程度である。 ウ 一部の取組の結果に改善傾向が見られる。
3	ア ほとんどの取組は、明確な目標が設定されている。 イ 学校が達成すべき目標とそれを達成するための取組について、主要な結果を明確に示すことができる。 ウ 学校目標の達成結果とそれを導き出す主要な取組結果で改善傾向が見られる。
4	ア 全ての取組は明確な目標が設定されている。 イ 学校が達成すべき目標とそれを達成するための取組について、ほとんど全ての結果を明確に示すことができる。 ウ 学校目標の達成結果とそれを導き出す取組の結果のほとんど全てが改善傾向にある。 エ 結果の水準は、その取組や仕事の進め方で、県内のリーダー的水準にある。
5	ア すべての目標が明確に示されるとともに、その目標はベストレベルである。 イ 学校目標達成度とそれを達成するあらゆる取組の結果がほぼ完璧に結びついた形で説明できる。 ウ 学校目標達成度とそれを導き出す取組の全てが改善傾向が最高水準を維持している。 エ 結果全てがベストと言える水準にあり、全国のトップレベルにある。

学校経営品質アセスメント 評点集計表

カテゴリー	配点	得点の算出方法	得点
1 校長のリーダーシップ	120	評点 × 24	
2 学校の社会的責任	50	評点 × 10	
3 学習者等の理解と対応	110	評点 × 22	
4 実施計画の策定と展開	60	評点 × 12	
5 人材育成と組織能力の向上	100	評点 × 20	
6 仕事の進め方	100	評点 × 20	
7 情報の管理と活用	60	評点 × 12	
8 学校の活動結果	400	評点 × 80	
合計	1000		